

## 平成20年度 特別支援専門部活動報告

今年度、特別支援専門部では障害の重い生徒の活動の充実を図ることを重点に取り組んだ。山形養護学校と山形盲学校の実践事例を記載し、活動報告に代える。

### < 山形養護学校の実践について >

#### 1 実践にあたって

今年度、山形養護学校では、主に訪問学級在籍の生徒を対象としたツールの製作に取り組んだ。はじめ「音を出すことで、意思表示ができるツール」を想定していたが、発達段階を考慮すると、単純に「操作して楽しいもの」にした方が良くと考え、「音の出るおもちゃ」のようなものにした。製作をするにあたり、以下のポイントを踏まえたものにと考えた。

- ・生徒の興味関心をひく外観である（視覚）
  - ・操作すると音が出て楽しめるものである（聴覚）
  - ・「押す」「引っ張る」など、自分で触れて操作し、満足感が得られる（触覚）
  - ・操作のしやすさを重視し、少ない力・限られた手指機能でも操作できる
- 遊びながら、指先を使い、自分の操作によって音が出せることの満足感を味わわせたい。

#### 2 製作したもの

市販の音が出るおもちゃは無数にあるが、ほとんどが「ボタンを押す」タイプのものであることから、「指1本でボタンを押す」程度の手指機能が必要とされるため、肢体不自由の生徒にとっては難しい。そこで、そのようなおもちゃのスイッチの部分をも、「軽く手を乗せるだけで押せるボタン」「手の先を引っかけて動かすだけで入るスイッチ」に換えた。

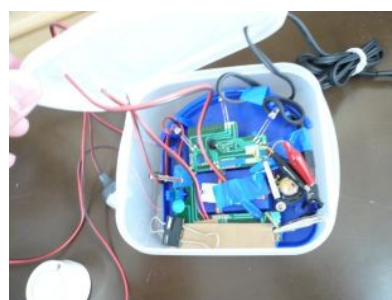
また、スピーカー部分は、音量の調整ができないため、音量調節機能付きのスピーカーと、小型スピーカーを内蔵したぬいぐるみの2つを付け替えられるようなジャックを取り付け、生徒の興味関心の対象や、場面によって使い分けられるようにした。（例：病棟など、音量が気になる場合はスピーカーを、音の出所をより意識させたい場合はぬいぐるみを使用）

運びやすさ・故障防止のため、また、ぬいぐるみとの統一感をだすため、手さげ袋の中にケースに入れた基盤部分を入れ、コード類などもまとめて収納できるようにした。

光センサー付きのライトを接続することにより、スイッチに触らなくても音や光が出せる仕組みについても実験してみたが、感度の面で改良の余地がまだ残る。今後の課題としたい。



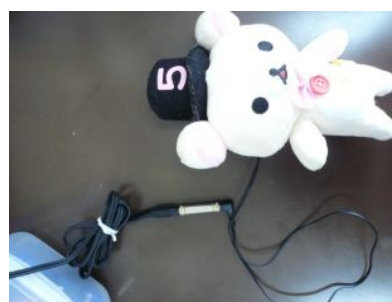
①外観（すべて袋の中に収納し運搬）



②基盤部分



③スイッチ2種（押すタイプと引っ張るタイプ）



④ぬいぐるみ（小型スピーカー内蔵）

#### 3 まとめ

今回製作したツールを用いることで、生徒が体を動かし、音を聞くことに対し、少しでも意欲を持って取り組むことができるようになれば幸いである。また、生徒の病状や障がい合った教材作りに日々努力しながら、病棟や家庭に赴いて授業を行う訪問学級の先生方にとって、少しでも役に立つことを期待する。

## <山形盲学校高等部普通科の実践について>

### I 「御祝儀袋作り～紙質や補助具の工夫」

#### 1 高等部普通科重複障がい学級の作業学習について

重複障がい学級の作業学習は1年と3年の合同（2年は欠学年）で行っている。活動内容は、手すき紙や紙箱、ビーズストラップ、パーラービーズの製作や割り箸のパック詰め等である。個々の見え方や手指機能の程度の違いに応じて補助具等を工夫して行っている。今回は、御祝儀袋をより正確に美しく折るための補助具を制作し、生徒の反応や感想をもとに改良を試みた。また、紙質の違いによって難易度がどう違うのか、さまざまな紙を使って試してみた。

#### 2 御祝儀袋作りの補助具（ガイド）

- ① 袋は4回折って完成する形にした。1回分ごとにガイドを作った。
- ② 紙をまっすぐに差し込めなかったため、補助線に合わせて修正できるようにした。
- ③ はじめは、差し込み口を切りっぱなしにしていたが開けにくそうな様子だったので、2つ折りにした。厚みが出て、少し浮くようになるので開けやすいという感想だった。

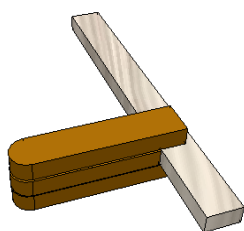


#### 3 紙質について

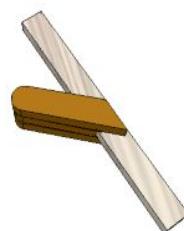
- ① A. 和紙（厚みのあるもの）、B. 和紙（コピー用紙くらいの厚さのもの）、C. ラッピング用紙（しわのあるもの）、D. 模造紙を試してみた。
- ② Aは、扱いやすく、かつ、折りがやすかった。ただし、厚みがあるので、指先に力を入れて折る必要があった。指先の使い方が練習できてよかった。
- ③ 次に良かったのはCであった。ただし、しわを伸ばさないようにするのが大変であった。
- ④ BとDは、薄いのでめくる作業がうまくいかなかった。

### II ジグソーを活用したブックエンドの製作

職業の学習で、会社を作ることになった。会社を作るにあたって資本金を作るために、全校の生徒に呼びかけ、空き缶回収をおこない1800円程の資本金を作ることができた。協力してくれた教職員の方々や生徒の皆さんに感謝の気持ちを表す意味で、点字本を立てるためのブックエンドの製作を行うこととなった。右の図のブックエンドを設計し、製作に取り組んだ。製作する上で視覚に障がいのある生徒にとって、直線を安全に早く切ることの難しさに配慮して、ジグソーを活用することにした。視覚に障害のある生徒には木材とジグソーを直角にすることが難しいため、木材が正確に直角になるようにジグを作成し、製作に使用した。また、よく利用する45度に切断するためのジグを作成して、ブックエンドの製作をおこなった。数多くの材料を正確に切り出す上で大変有用なものであった。



(直角作成用のジグ)



(45° 作成用ジグ)